

【全体として】

2013 年 1 月 1 日に改定された国際体操連盟制定の採点規則に基づき、E 得点（演技得点）、D 得点（難度得点）を正確に日本国内にて運用し、国際大会と国内大会の採点基準に格差が生じないよう正確な採点を行うことを目指します。

トランポリン

【E 得点について】

- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」、「伸び型」の各々の姿勢における姿勢の「作り」の評価を厳格に行うこととする。
- ・宙返りの終盤における「伸身姿勢の維持」において、姿勢の維持のみならず腕を可能な限り体側に付けているかも含めて評価を厳格に行うこととする。
- ・宙返り種目同様に難度のないフィートバウンスにおける「抱え」、「屈伸」姿勢の評価を厳格に行うと同時に、「腹」、「背」での着床種目からの立ち姿勢までの局面における伸身姿勢の維持も厳格に評価を行うこととする。
- ・アウトバウンスにおける大幅な乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととする。

【D 得点について】

- ・D 得点採点の際の姿勢の見極めにおいて、判断が付きにくい際には厳格に評価を実施する。
例) 抱え姿勢か屈伸姿勢かで判断が付きにくい場合 → 抱え姿勢とみなす

【T 得点・S 得点について】

- ・国際大会同様、本会主催・共催競技会において国際体操連盟公認の測定器具を用いて採点を行う。

タンブリング

【E 得点について】

- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」、「伸び型」の各々の姿勢における姿勢の「作り」の評価を厳格に行うこととする。
- ・テンポ宙返りにおけるリズム、スピードおよび終盤における「伸身姿勢の維持」姿勢の維持の評価を厳格に行うこととする。
- ・宙返り種目からのテンポ宙返りにおいては、特に高さの上昇＝スピードの失速について厳格に評価を行うこととする。
- ・着地において、上半身の乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととする。

【D 得点について】

- ・D 得点採点の際の姿勢の見極めにおいて、判断が付きにくい際には厳格に評価を実施する。
例) 抱え姿勢か屈伸姿勢かで判断が付きにくい場合 → 抱え姿勢とみなす

ダブルミニトランポリン

【E 得点について】

- ・宙返りの「開き」位置のみならず「抱え型」、「屈伸型」、「伸び型」の各々の姿勢における姿勢の「作り」の評価を厳格に行うこととする。
- ・着地において、上半身の乱れや安定感の欠如も着地減点の対象として厳格に評価を行うこととする。

【D 得点について】

- ・D 得点採点の際の姿勢の見極めにおいて、判断が付きにくい際には厳格に評価を実施する。
例) 抱え姿勢か屈伸姿勢かで判断が付きにくい場合 → 抱え姿勢とみなす